



平成29年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年4月28日

上場会社名 日本和装ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2499 URL <http://www.wasou.com/profile/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田重久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 菅野泰弘 TEL 03-3216-0070
 四半期報告書提出予定日 平成29年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第1四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第1四半期	971	8.2	△101	—	△117	—	△116	—
28年12月期第1四半期	897	△10.5	△205	—	△223	—	△180	—

(注) 包括利益 29年12月期第1四半期 △110百万円 (—%) 28年12月期第1四半期 △184百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第1四半期	△12.91	—
28年12月期第1四半期	△20.08	—

(注) 平成28年12月期第1四半期及び平成29年12月期第1四半期の営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益がいずれも損失であったため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。また、平成28年12月期第1四半期及び平成29年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第1四半期	6,031	2,244	37.0
28年12月期	6,340	2,386	37.5

(参考) 自己資本 29年12月期第1四半期 2,230百万円 28年12月期 2,376百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	2.00	—	3.00	5.00
29年12月期	—	—	—	—	—
29年12月期(予想)	—	2.00	—	3.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,400	6.1	140	288.9	100	4,900.0	50	—	5.55
通期	5,000	3.3	330	2.2	260	4.0	150	△13.8	16.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期 1 Q	9,002,000株	28年12月期	9,002,000株
② 期末自己株式数	29年12月期 1 Q	0株	28年12月期	0株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期 1 Q	9,002,000株	28年12月期 1 Q	9,002,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7
3. 補足情報	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループのビジネスモデルは、春と秋の年2回教室を開講し、着付けの技術、和装の知識を伝えた上で開催する販売機会によって収益が発生する仕組みになっております。つまり、第1四半期と第3四半期に教室の受講者募集を行い、それぞれ次四半期、第2四半期と第4四半期に教室の販売機会が集中します。

(下記の図参照)

新・きもの着付け教室	第1四半期 (1月～3月)	第2四半期 (4月～6月)	第3四半期 (7月～9月)	第4四半期 (10月～12月)
春の教室	募集	販売機会		
秋の教室			募集	販売機会

(当社の新規受講者募集及び販売機会フロー)

当第1四半期におきましては、春の教室募集から、これまで長年継続してきた「無料きもの着付け教室」という教室名を「新・きもの着付け教室/受講料無料」とし、全15回としていたカリキュラムを6回へ凝集・短縮しました。女性の多くが仕事を持ち、忙しく暮らす現代にマッチしたスピーディさを強調するため、さらに有名女性タレントを起用した募集プロモーションでは「早くて、きれいで、カンタンに」「お出かけまで15分」というPRメッセージを展開、当社の早く着られる着付け技術をアピールしました。その結果、春の新規応募数は昨年同時期比約1.5倍となり7,000人を超えました。一方、連結子会社である株式会社はかた匠工芸(博多織の製造販売)では、今期のテレビコマーシャルにおいて女性タレントが博多織の帯を着用したことや、博多での工場見学ツアー等での売り上げが好調だったことから、売上高が昨年度に比べ大幅に増加しました。また、ニチクレ株式会社(旧会社名日本和装クレジット株式会社)では、当社顧客向けショッピングローン事業が好調で取引高が増加、連結業績の向上に寄与しました。

これらの結果、グループ全体としての売上高は前年同四半期比8.2%増の971百万円となりました。

販売費及び一般管理費については、広告宣伝(主に春の新規受講者募集プロモーション)の効率化や人員配置の適正化による人件費の減少、また、イベント等の販売仲介機会における効率的な運営等によって、売り上げに対する経費の割合が縮小、経費の適正化が一層加速しつつあると考えております。このことから、営業損失は前年同四半期に比べ約半分に減少し、101百万円となりました(前年同四半期は営業損失205百万円)。

営業外損益では、ニチクレ株式会社(旧会社名 日本和装クレジット株式会社)の運転資金の借入等の支払利息を8百万円、資金調達手数料等の支払手数料10百万円を計上したことにより、経常損失は117百万円となりました(前年同四半期は経常損失223百万円)。

法人税等は法人税、住民税及び事業税を計上するとともに、法人税等調整額を計上した結果、マイナス10百万円(前年同四半期はマイナス43百万円)を計上いたしました。

これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は116百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失180百万円)となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心とした、きもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して309百万円減少して、6,031百万円となりました。これは主に春の新規受講者募集プロモーションにかかる広告宣伝費及び借入金の返済等により、現金及び預金が440百万円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、短期借入金が返済により119百万円減少、社債が償還により50百万円減少したこと等から3,786百万円となりました。

純資産につきましては、当第1四半期連結累計期間に計上した親会社株主に帰属する四半期純損失116百万円及び配当金の支払い27百万円により、前連結会計年度末と比較して141百万円減少し、2,244百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成29年2月13日に公表いたしました連結業績予想からの修正は行っておりません。

現在の取り組みについて

当社グループでは、和装を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、風向きをしっかりと捉え、業績に結びつけていくことを命題としております。和装文化は、例えば、嫁入り道具という形で親から子へと受け継がれてきた経緯がありますが、現代においてその伝達は途切れつつあります。代わって今や和装は「ファッション」のひとつです。当社では、きものというファッションをお客様に選択していただける環境づくりに取り組んでおります。具体的には、「早くて、きれいで、カンタンに」を合言葉に、独自のベルトを使った、スピーディで、そして苦しくない楽な着付けを提案しており、まずは自分できものを着られる喜びを体感していただくことを目指しております。また今期からは、購入後2年間、無償でシミや汚れ等をケアする「メンテナンスフリー」制度を導入、きものは手入れが大変というイメージを払拭するべく、施策を展開しております。一方、きものモデル事業を行っている株式会社メインステージを当第1四半期から連結子会社としました。手持ちの着物を自ら美しく着こなすことが出来る日本女性をご紹介できるユニークなモデルエージェンシーとして、需要拡大を目指して取り組んでまいります。

2020年の東京オリンピックの開催まであと3年と迫り、和装への関心はますます高まることが予想されます。今後とも当社では、「教えて、伝えて、流通を促す」ことで和装ファンを増やし、きものを着る様々な機会を提供することで、新規顧客の獲得、既存顧客の掘り起こしに力を尽くしてまいります。

一方、東京と京都に出店中の「男きもの専門店SAMURAI」では、来店者数、売上高ともに前年より伸びており、男性向けきもの市場は徐々に芽吹きつつあると考えております。今後とも当社グループをあげて男きものPRを充実させ、女性向けきもの市場との相乗効果により、和装市場全体をさらに活性化させるべく、努力してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,638,258	1,198,071
営業未収入金	231,461	269,684
割賦売掛金	3,118,237	3,007,859
たな卸資産	151,567	175,682
その他	470,772	637,844
貸倒引当金	△43,820	△45,051
流動資産合計	5,566,475	5,244,091
固定資産		
有形固定資産	317,765	304,932
無形固定資産	92,239	85,198
投資その他の資産	364,161	396,952
固定資産合計	774,166	787,083
資産合計	6,340,642	6,031,175
負債の部		
流動負債		
営業未払金	45,313	49,747
短期借入金	2,178,111	2,058,502
1年内償還予定の社債	50,000	—
未払法人税等	96,590	7,426
前受金	171,536	274,532
営業預り金	19,571	38,905
その他	374,689	357,321
流動負債合計	2,935,811	2,786,435
固定負債		
長期借入金	966,446	951,409
その他	52,072	48,733
固定負債合計	1,018,518	1,000,142
負債合計	3,954,330	3,786,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	459,634	459,634
資本剰余金	336,487	336,487
利益剰余金	1,591,441	1,443,426
株主資本合計	2,387,563	2,239,548
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△10,637	△9,100
その他の包括利益累計額合計	△10,637	△9,100
新株予約権	9,386	9,450
非支配株主持分	—	4,698
純資産合計	2,386,312	2,244,597
負債純資産合計	6,340,642	6,031,175

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
売上高	897,759	971,345
売上原価	104,678	123,216
売上総利益	793,081	848,129
販売費及び一般管理費	998,611	949,480
営業損失(△)	△205,529	△101,350
営業外収益		
受取利息	141	12
その他	682	2,606
営業外収益合計	823	2,618
営業外費用		
支払利息	9,084	8,198
支払手数料	7,105	10,087
その他	3,024	748
営業外費用合計	19,214	19,034
経常損失(△)	△223,920	△117,766
税金等調整前四半期純損失(△)	△223,920	△117,766
法人税、住民税及び事業税	9,244	4,711
法人税等調整額	△52,445	△15,493
法人税等合計	△43,200	△10,781
四半期純損失(△)	△180,720	△106,984
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	9,253
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△180,720	△116,238

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
四半期純損失(△)	△180,720	△106,984
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△3,356	△3,055
その他の包括利益合計	△3,356	△3,055
四半期包括利益	△184,076	△110,040
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△184,076	△114,701
非支配株主に係る四半期包括利益	—	4,660

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心とした、きもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

3. 補足情報

業績の四半期特性について

当社グループの主な収益源のひとつは、春期と秋期の「新・きもの着付け教室/受講料無料」の新規受講者を対象にした販売機会において、各契約企業が商品を販売する際の販売仲介手数料です。春期は第1四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第2四半期が中心になります。同様に秋期では第3四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第4四半期が中心になります。よって業績には四半期特性があります。